

平成27年8月25日

調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
(平成27年度 第1回)

資料2-2

技術者評価を重視した選定 (平成26年度試行2)に関する報告

試行2 技術者評価を重視した選定(課題認識)

試行2 技術者評価を重視した選定(概要)

試行2の実施状況

試行2の実施結果

①入札の競争性・占有率

②落札者の技術点・価格点順位

③入札率・落札率の分布

④工種別業務成績評定点

⑤評価点1・2位差分布

⑥受発注者アンケート調査結果

⑦発注者個別ヒアリング調査結果

総合評価落札方式の今後のあり方

試行2の評価と今後の方向性

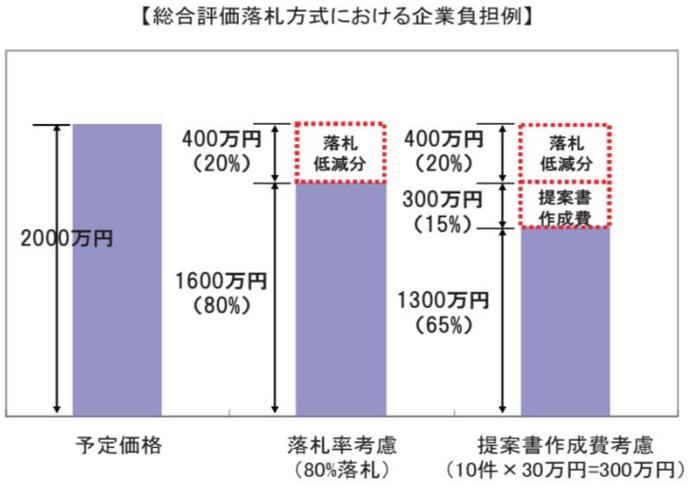
試行2. 技術者評価を重視した選定(課題認識)

現状の課題認識

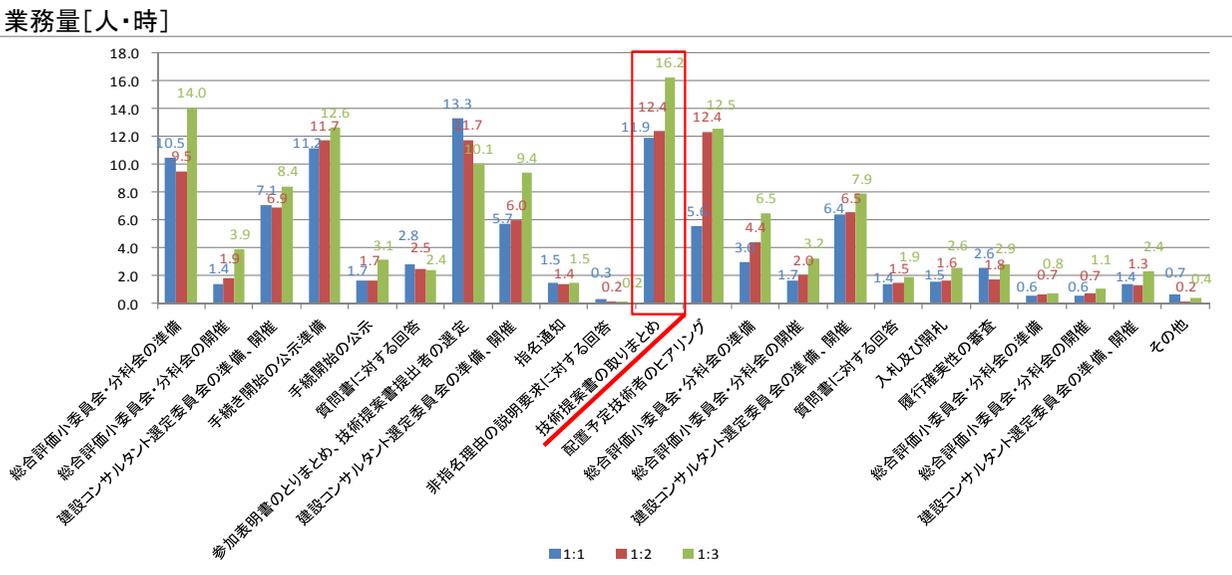
1) 総合評価落札方式の標準型(1:2、1:3)の業務は、評価テーマに関する技術提案の作成や技術提案の審査とりまとめなど、受注者、発注者双方ともに、負担感が大きい。

- ・ 受注者における技術提案の作成には、落札の成否によらず一定の経費を要している。
- ・ 発注者が行う技術提案の審査とりまとめには、1業務あたり12~16時間・人を要している。

【受注者側の技術提案書作成費】



【発注者側の審査等の配点比率別の1業務あたり事務作業量】



※出典:「平成25年度 建設コンサルタント白書 平成25年6月 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会」

総合評価のタイプ	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	手続き開始の公示準備	手続開始の公示	質問書に対する回答	参加表明書のとりまとめ、技術提案書提出者の選定	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	指名通知	非指名理由の説明要求に対する回答	技術提案書の取りまとめ	配置予定技術者のヒアリング	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	質問書に対する回答	入札及び開札	履行確実性の審査	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	その他	合計
1:1	10.5	1.4	7.1	11.2	1.7	2.8	13.3	5.7	1.5	0.3	11.9	5.6	3.0	1.7	6.4	1.4	1.5	2.6	0.6	0.6	1.4	0.7	93.3
1:2	9.5	1.9	6.9	11.7	1.7	2.5	11.7	6.0	1.4	0.2	12.4	12.4	4.4	2.0	6.5	1.5	1.6	1.8	0.7	0.7	1.3	0.2	101.8
1:3	14.0	3.9	8.4	12.6	3.1	2.4	10.1	9.4	1.5	0.2	16.2	12.5	6.5	3.2	7.9	1.9	2.6	2.9	0.8	1.1	2.4	0.4	129.4

単位:人・時

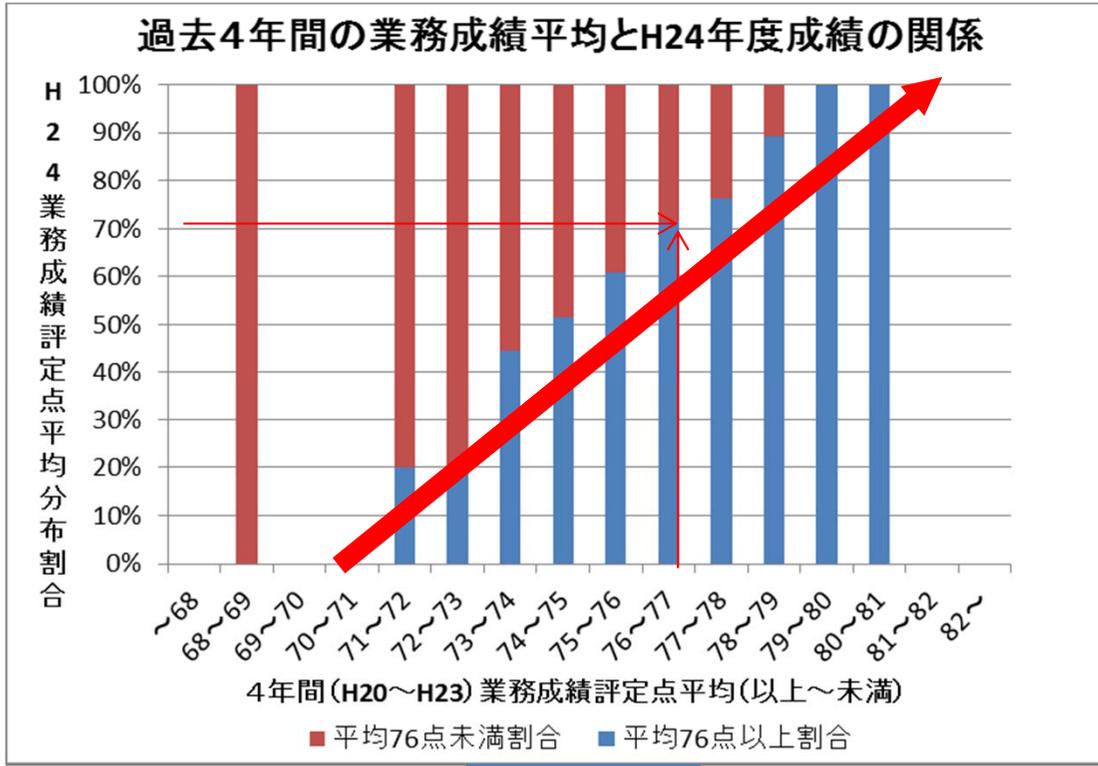
※H23・24年度業務実績、国土交通省調べ

試行2. 技術者評価を重視した選定(課題認識)

現状の課題認識

2) 過去の技術者の成績は、当該業務成績に概ね比例しており、信頼性が高い指標といえるが、現在は、評価ウエイトが小さく、非効率ではないか。

- 管理技術者の過去の業務成績が高くなるほど、当該業務の成績が高くなる割合が増加。
 - ・平成20～23年度の4箇年の業務成績の平均が76点以上の管理技術者の7割以上が平成24年度の業務成績の平均が76点以上。



※技術者の成績評価のウエイトを高めることで、**成果品質の確保・向上**が期待できるのではないかと。
←技術者を評価する場合、直接確認することが重要

試行2. 技術者評価を重視した選定(概要)

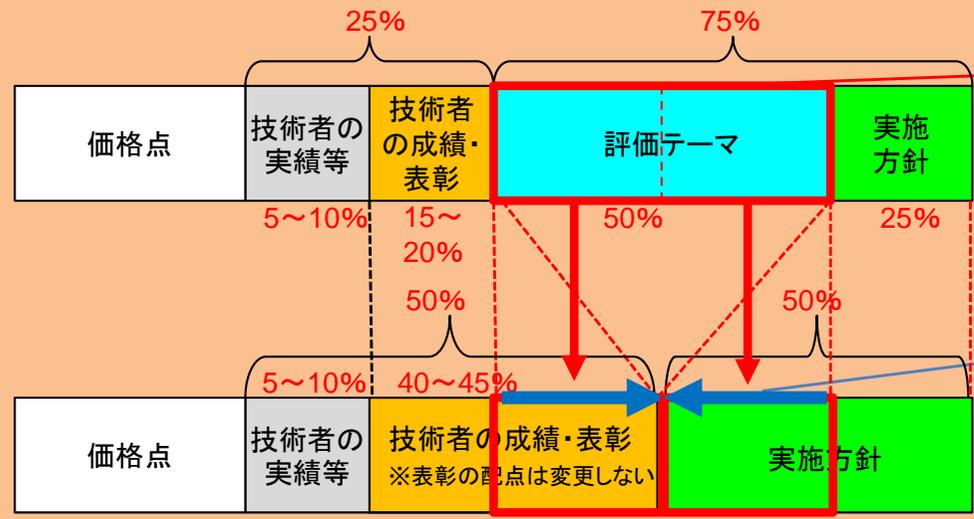
試行の実施内容

「評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分」の試行を実施(H26.6.16公示案件から)。

- 対象工種:河川事業:堤防・護岸設計
道路事業:道路予備(用地幅)、構造物予備(一般)、構造物詳細・補修設計(一般)、道路詳細(一般)
- 試行規模:実施件数は、上記工種毎に2割程度
- 発注方式:総合評価落札方式(1:3)

入札段階の技術評価

【配点案】総合評価落札方式(標準型)



「評価テーマ」の配点割合50%を、「技術者の成績・表彰」、「実施方針」に25%ずつ分配

ヒアリングの実施
 試行業務では、入札段階の技術評価において、予定管理技術者の過去の実績や業務理解度、業務実施方針等について、配置予定管理技術者と面談し、当該業務の履行に必要な技術力の確認を行うものとする。

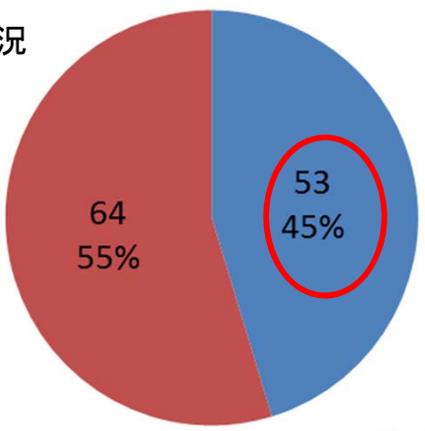
試行2の実施状況

試行実施状況

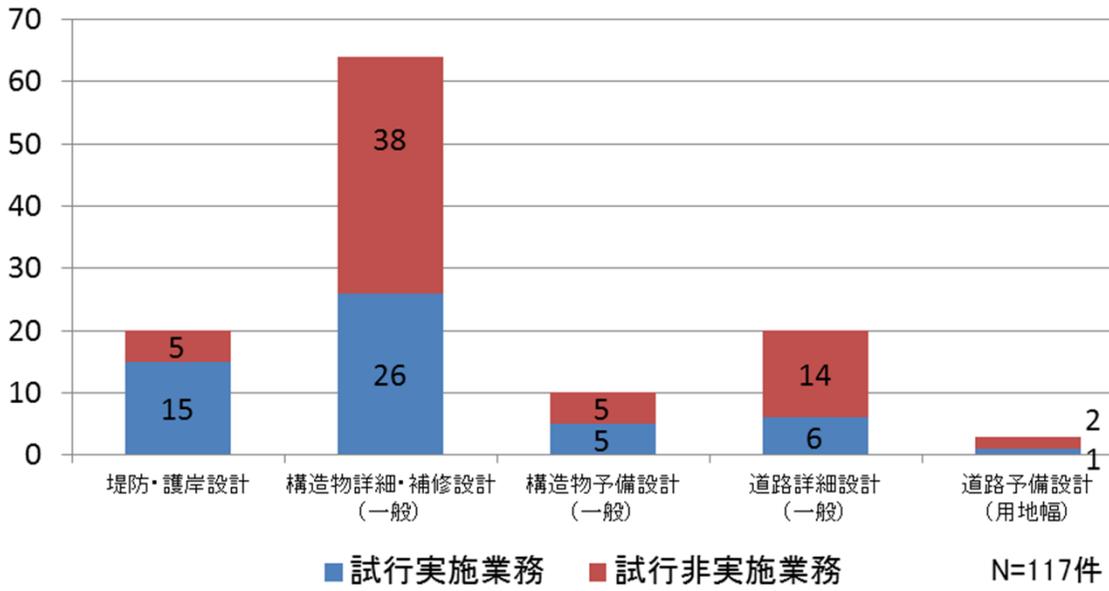
- 試行開始以降の試行対象工種のH26年度契約件数は117件。
- このうち試行を実施した業務は53件であり、試行対象工種の4割以上の業務で試行実施。
- 総合評価(標準型)全体に占める割合は限定的。

試行2業務件数

試行対象工種における実施状況

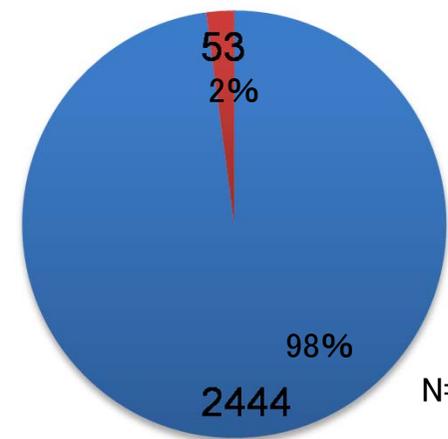


N=117件



N=117件

総合評価(標準型)に占める実施割合



N=2497

■ 標準型 ■ 技術者評価重視型

①入札の競争性・占有率

- 入札参加の状況については、1業務あたり入札参加者数、1業務当たりの参加表明者数とも、試行実施業務と非実施業務の間に、大きな差は見られない。
- 落札者の状況については、試行実施業務の落札上位3社占有率、入札参加上位5社占有率とも、試行実施業務と非実施業務の間に、大きな差は見られない。
→試行業務での入札参加・落札の特定業者への偏りは見られない。

試行実施業務と試行非実施業務における入札参加等の傾向

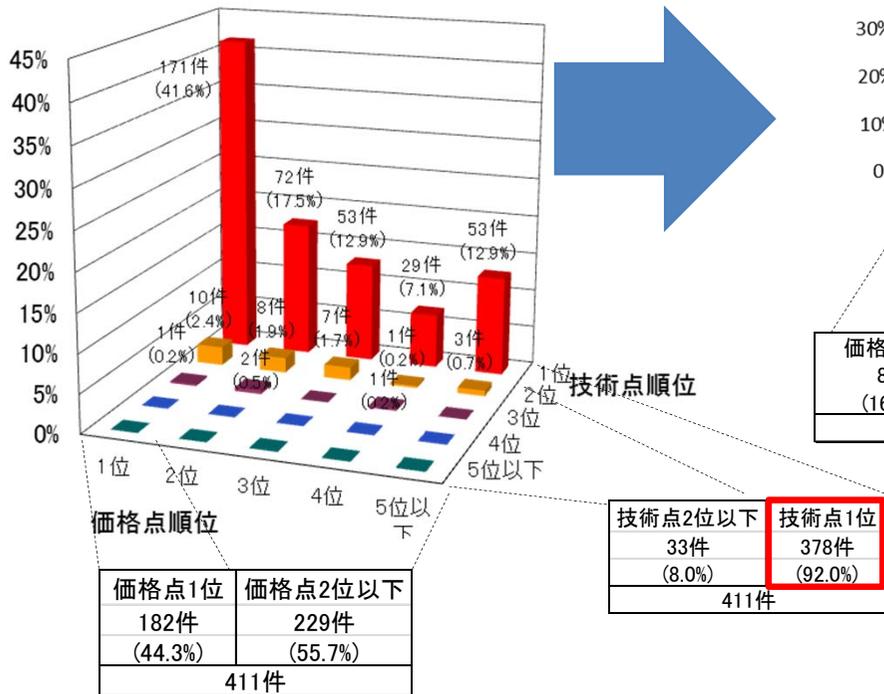
	業務件数	延べ入札参加者数	1業務当りの入札参加者数	延べ参加表明者数	1業務当りの参加表明者数
試行実施業務	53	349	6.6	383	7.2
試行非実施業務	64	435	6.8	476	7.4

	落札件数上位3社の総落札件数	落札上位3社占有率	入札参加上位5社の延べ参加件数	入札参加上位5社占有率
試行実施業務	15	28%	77	22%
試行非実施業務	18	28%	123	28%

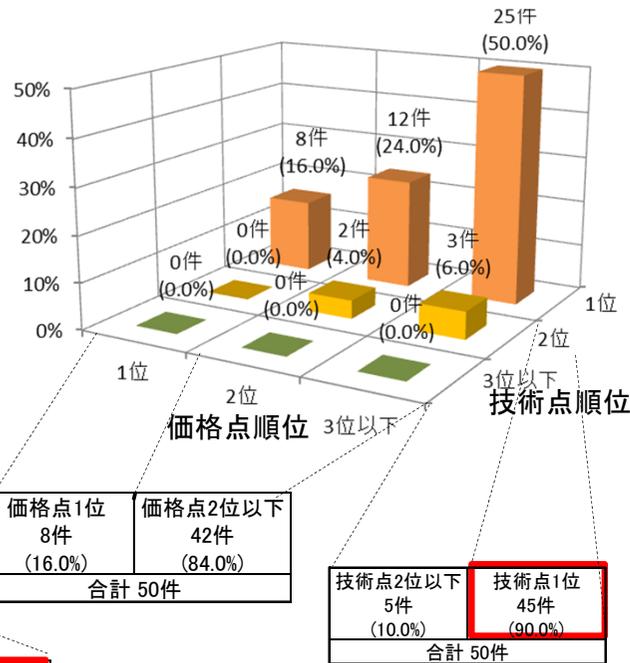
②落札者の技術点・価格点順位

・ 技術点1位者(価格点1位者を含め)が落札した割合は、試行実施業務90.0%、非実施業務91.9%と、ともに大部分を占めた。

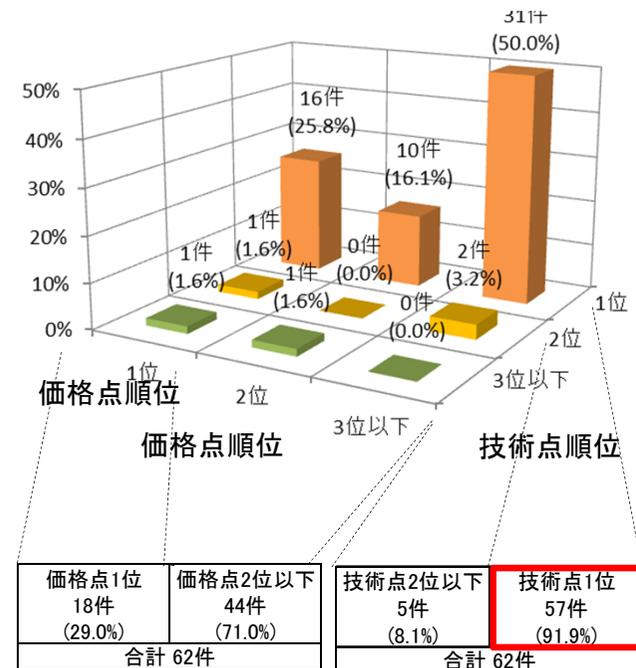
H25業務(5工種:総合評価標準型)



H26試行2実施業務



H26試行2非実施業務

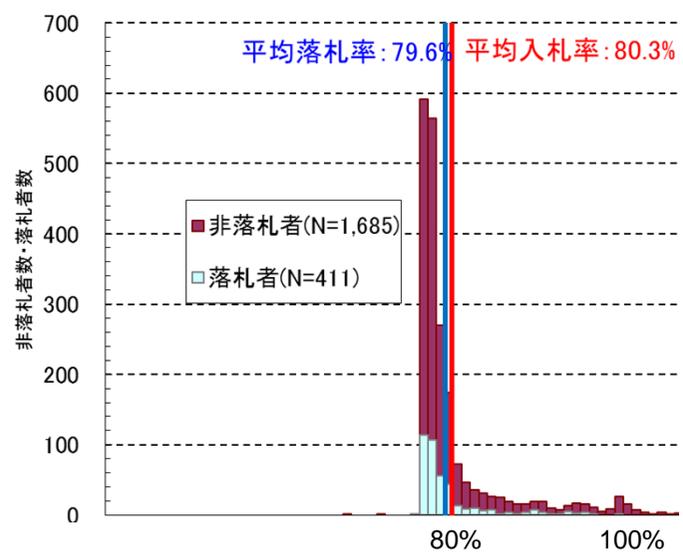


※入札参加者が1者であった業務(試行実施業務3、試行非実施業務2)を除いた。

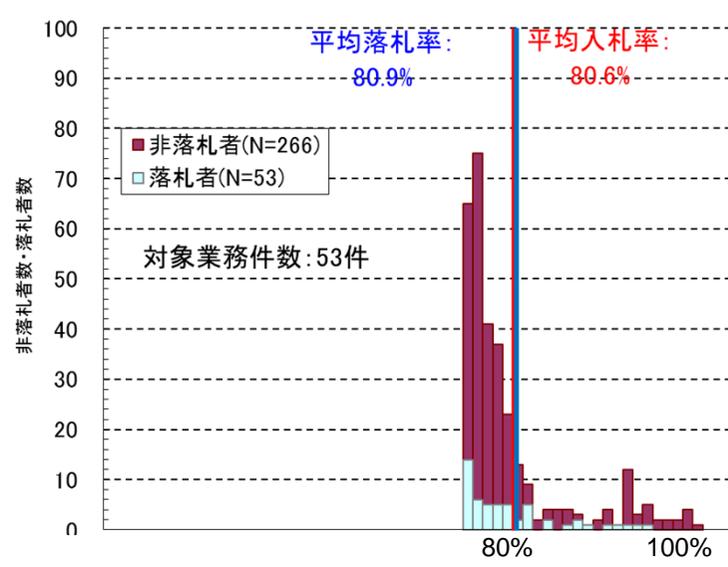
③入札率・落札率の分布

・ 試行実施業務では、非実施業務と比較して、平均入札率、平均落札率とも大きな差はない。

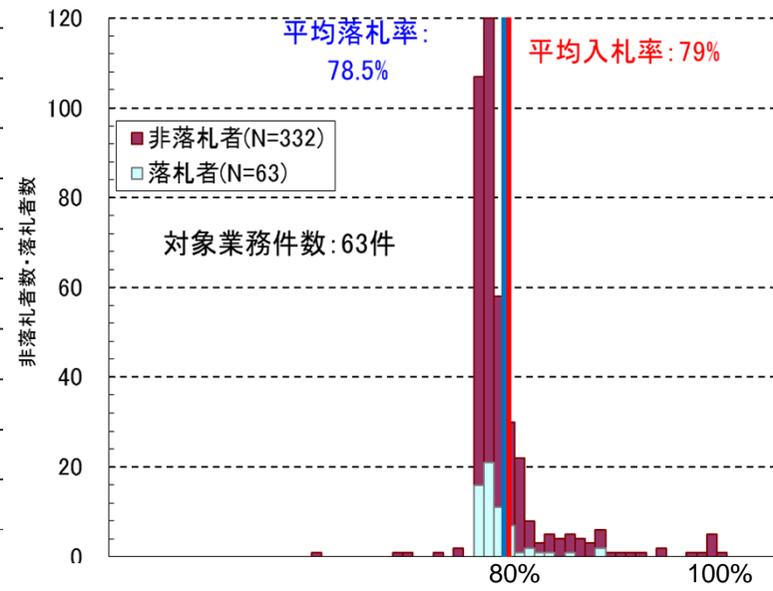
H25年度 総合評価標準型 入札率・落札率分布(5工種)



H26年度試行2 入札率・落札率分布(試行実施業務)



H26年度試行2 入札率・落札率分布(試行非実施業務)



※プロポーザルで実施された業務(試行非実施業務1)を除いた。

④工種別業務成績評定点

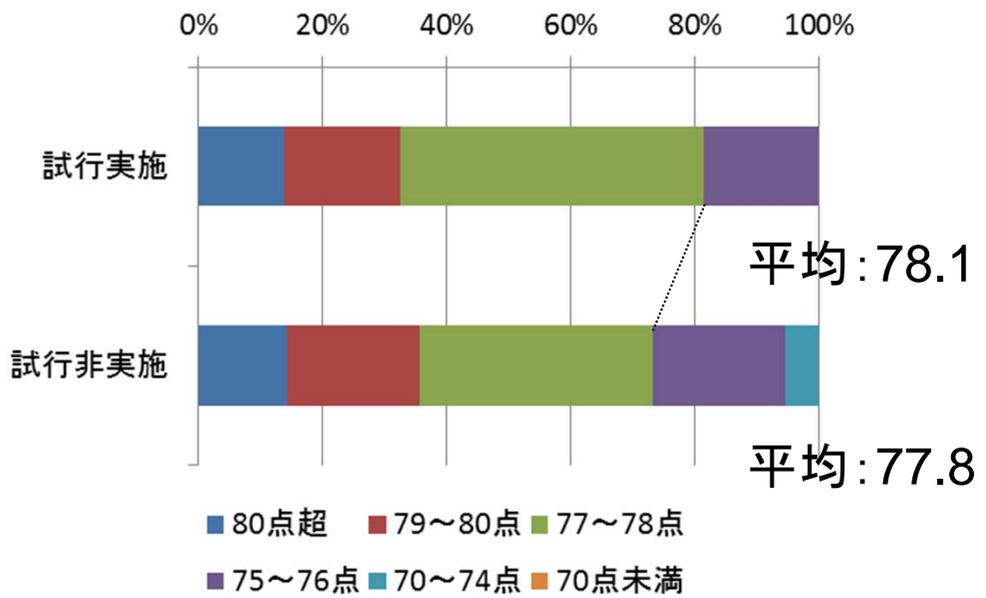
- ・ 業務成績評定点平均は、試行実施で78.1点、非実施で77.8点となり、試行実施業務が非実施業務を上回った。
- ・ 得点分布を見ると、試行実施業務が非実施業務と比べて低得点層が少なくなっている。

1. 工種別業務成績評定点平均

工種	実施件数		業務成績評定点平均	
	試行実施	試行非実施	試行実施	試行非実施
【河川事業】堤防・護岸設計	11	1	77.4	81.0
【道路事業】構造物詳細・補修設計(一般)	22	35	78.4	78.0
【道路事業】構造物予備設計(一般)	3	5	79.0	78.4
【道路事業】道路詳細設計(一般)	6	14	77.5	76.9
【道路事業】道路予備設計(用地幅)	1	1	79.0	79.0
合計	43	56	78.1	77.8

注)H26年度内完了業務
(他に実施中業務が18件(試行実施10、非実施8))

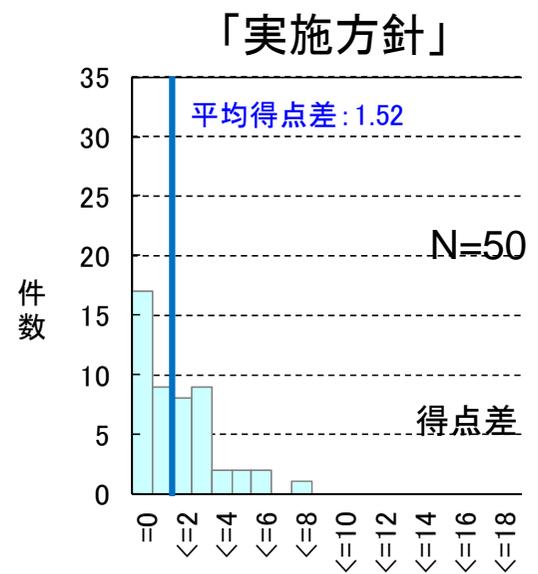
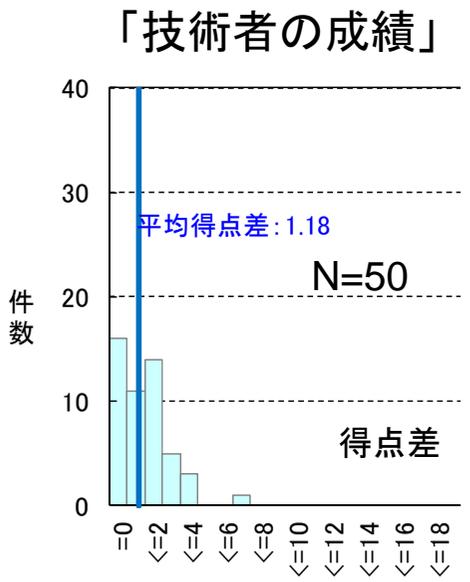
2. 業務成績評定点分布



⑤ 評価点1・2位差分布(評価項目別技術点)

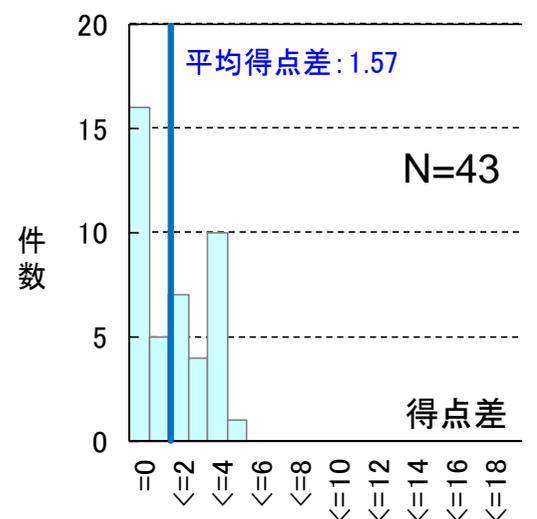
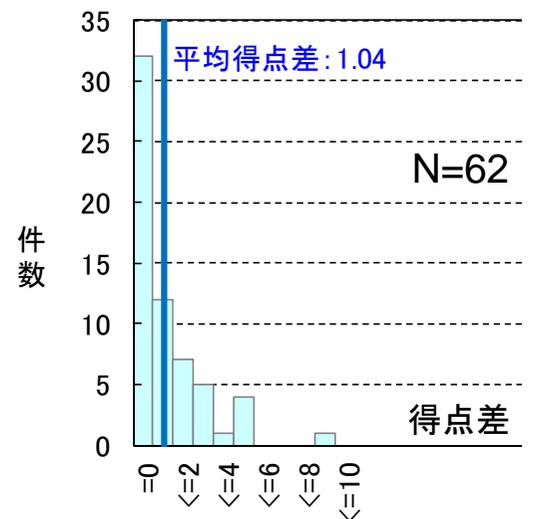
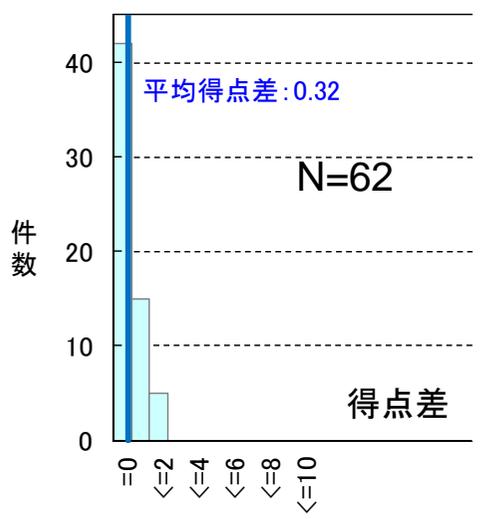
・「技術者の成績」、「実施方針」について、試行における評価方法の変更に応じて得点差が生じている。

試行
実施業務



「評価テーマ」
(試行実施業務は評価
テーマ無し)

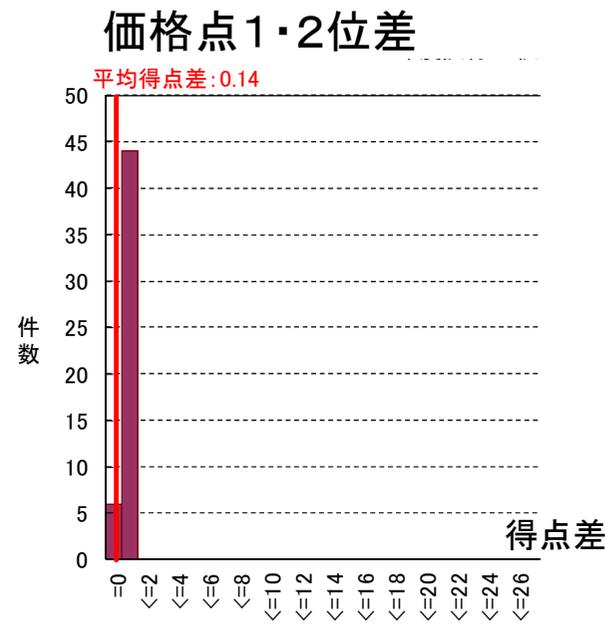
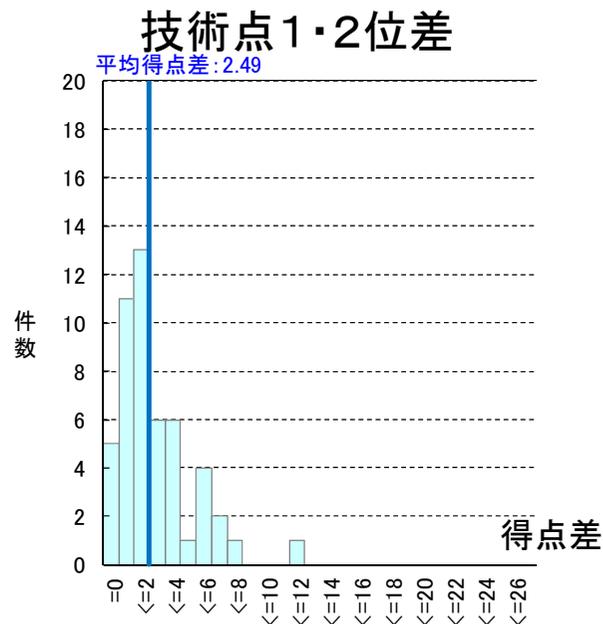
試行
非実施業務



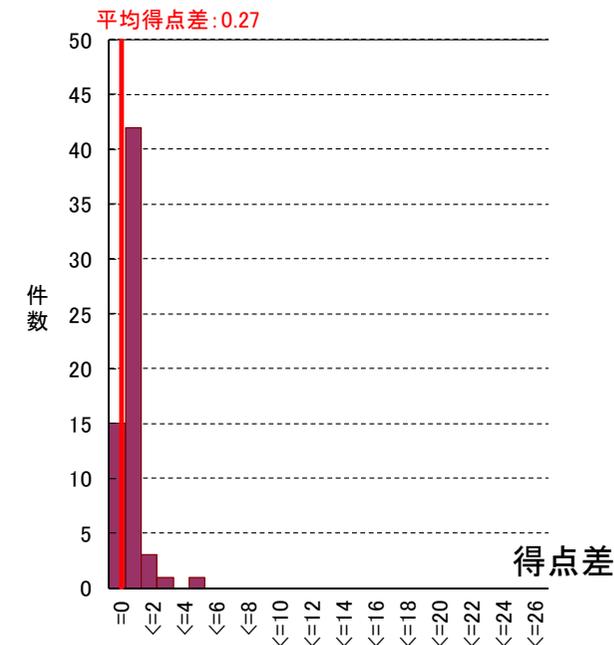
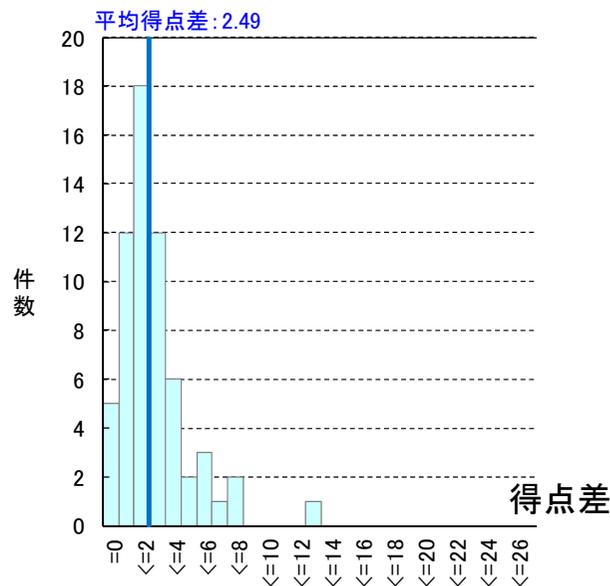
⑤ 評価点1・2位差分布(技術点・価格点)

・技術点1・2位差、価格点1・2位差ともに、試行実施業務と非実施業務との間に大きな差は認められない。

試行実施業務
(N=50)



試行非実施業務
(N=62)



⑥受発注者アンケート調査について

1. 調査の対象・回答数

①調査の対象

- ・発注者: 試行2実施業務を発注した機関
- ・受注者: 試行2実施業務を受注した者

②回答数

- ・受注者: 36者、発注者: 32者

2. 調査の時期

- ・平成26年11月下旬～12月中旬

3. 調査の主な内容

対発注者

- ①技術力を有する者と契約できたか否かに関する所見
- ②入札事務負担軽減に関する所見

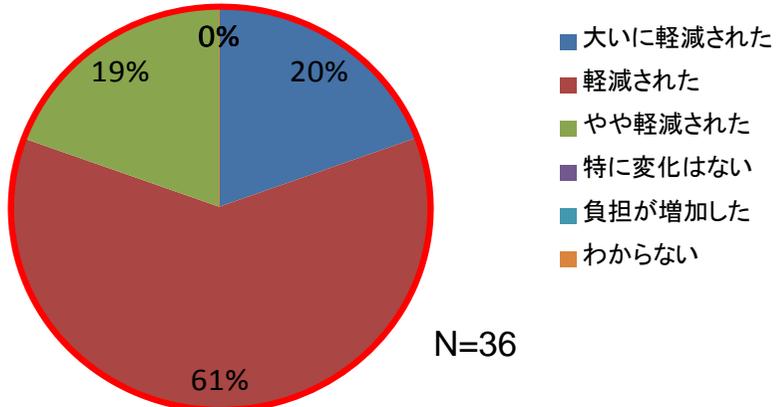
対受注者

- ①技術提案書作成負担の軽減に関する所見
- ②技術力を評価されたか否かに関する所見

⑥受発注者アンケート調査結果(事務の簡素化)

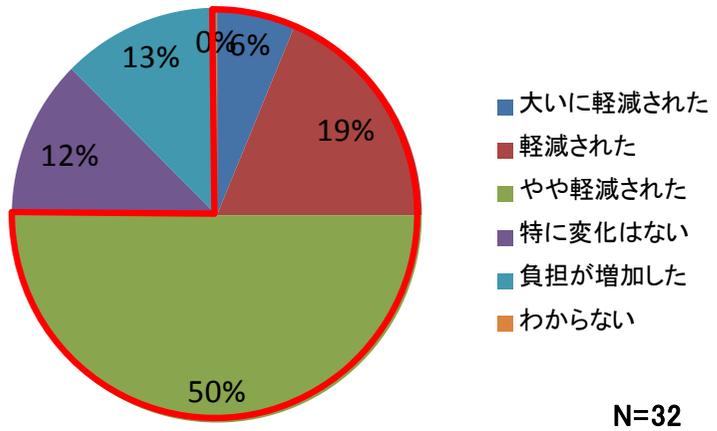
・受発注者ともに試行への肯定的な意見が多数を占めた。
(受注者:提案書作成負担が軽減、発注者:発注事務の負担感が軽減)

【受注者】技術提案書作成の負担



➤ 全ての受注者が技術提案書作成負担が軽減したと回答。

【発注者】入札・契約事務の負担の軽減

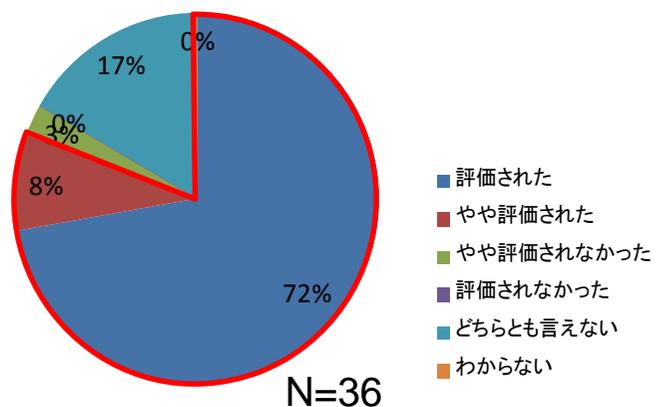


➤ 発注者の3/4が入札・契約事務負担が軽減したと回答。

⑥受発注者アンケート調査結果(技術力の評価)

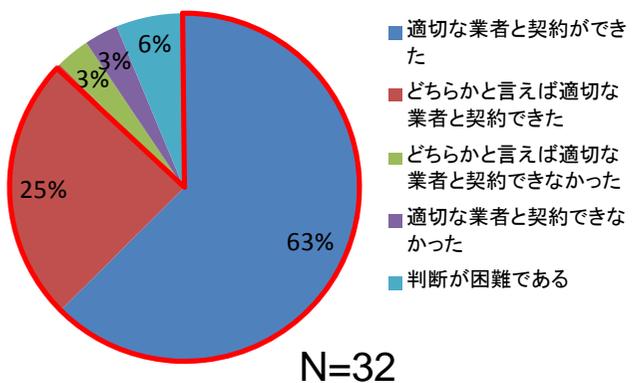
・受発注者ともに試行への肯定的な意見が多数を占めた。
(受注者:会社及び技術者の能力を評価されていると認識、発注者:十分な技術力を有する適切な者と契約できたと認識)

【受注者】技術者の技術力の評価



➤ 受注者の約8割が技術者の技術力が評価されたと認識

【発注者】十分な技術力を有する者との契約



➤ 発注者の約9割が技術力を有する者と適切な契約ができたと回答。

⑥受発注者アンケート調査結果(自由意見)

自由意見

発注者

- 本格導入には、業務内容等を踏まえて、柔軟に適用できるよう配慮が必要である。 2件
- ヒアリングに要する業務負担が増加する。(特に、参加者が多い場合) 3件
- ヒアリングの省略の検討も必要である。 3件
- 実施方針や技術者の資質を確認する上でヒアリングは必要である。(ただし、時間を短縮するなどの工夫が必要と思われる。) 2件
- 過去の業務実績数により平均業務評価点に問題が生じる場合がある。
例) 77点(42件)、80点(1件)では前者の方が信頼性が高いと考えられる。 1件
- 業務評価点の配点の見直しが必要である。 3件

受注者

- 良い試行である。 9件
- 試行を継続してもらいたい。 3件
- 業務内容や現場特性に応じて、必要により、評価テーマの設定も必要である。 4件
- 試行が全業務に拡大されると、ヒアリングの実施回数が多くなり、その対応に苦慮することが想定される。 3件
- ヒアリングの評価基準がわからない。 2件
- 経験の少ない技術者に配慮する必要がある。 2件
- 一つの地整で展開する地方コンサルより、平均業務評価点の高い他地整の実績を持つ広域コンサルの方が有利に思える。 1件
- 過去の平均業務評価点は、複数物件(5件以上等)で評価して頂きたい。業務実績1件が高評価の場合は、それが過去の平均業務評価点となる。 1件

⑦発注者個別ヒアリング調査について

1. 調査の対象

①調査対象業務

- ・試行2対象業務のうち、「試行実施業務」「試行非実施業務」の両方を同一の事務所・担当課で発注
- ・6事務所15業務(試行実施6業務、試行非実施9業務)

②調査の相手

- ・発注時の主任調査員へ直接電話にて聴取

2. 調査の時期

- ・平成27年7月27日～29日

3. 調査の主な内容

- ①試行2実施業務の技術評価に対する見解
- ②試行2実施業務選定の考え方

⑦発注者個別ヒアリング調査結果(1)

試行2実施業務の技術提案書の評価について

「予定管理技術者の過去の業務成績」について

- ・優れた者を選定する上で、一定の信頼感・安心感。
- ・ただし、必ずしも良好な成果を得るための担保とならない意見も見られた。

「実施方針」について

- ・不適業者を排除する意味では有効。
- ・一方で、技術力の最も高い者を選定することには、直接的にはつながらない。

「評価テーマ」について

- ・今回の試行に範囲においては、「評価テーマ」を設定しなくても一定の能力を有する者を選定でき、特段の問題はなかった。
- ・「評価テーマ」を設定しないことにより発注事務の効率化に有効。

ヒアリングの実施について

「ヒアリング」による効果・課題等

- ・同種業務の経験に関する詳細な情報を得ることができたこと、技術者の資質が確認できたことなどの効果。
- ・不適業者を排除する意味では有効であり、優れた者を選定する上でも有効。
- ・一方で、「ヒアリング」には時間を要するため、負担感あり。

⑦発注者個別ヒアリング調査結果(2)

試行2実施業務選定の考え方

「仕分け」について

- ・業務の内容に応じて、「技術者評価重視型」と「標準型」の使い分けを行った。
- ・「技術者評価重視型」にふさわしい業務の目安をフローチャートなどにより示して欲しい。

「技術者評価重視型」に適した業務

※技術者の過去の実績、経験が重視される業務

- ・調査や点検の結果の評価
(調査や点検の経験が豊富な技術者)
- ・関係機関との協議
(協議時に要求される事項を熟知している技術者)
- ・地元対応などの個別の細かな事案に対する対応
(多種多様な対応手法を迅速に提案できる技術者)

「標準型」に適した業務(テーマが必要とされる業務)

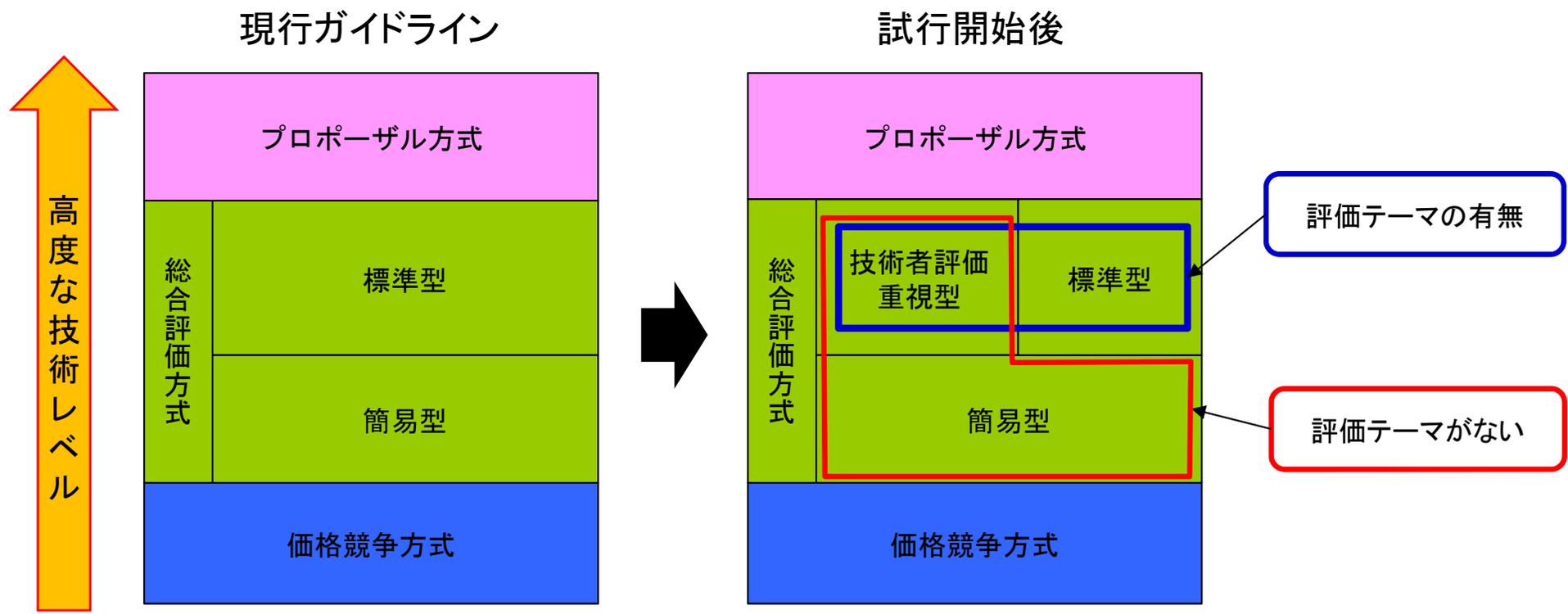
※特定の課題に対する解決能力が重視される業務

- ・施工ヤードが限定されるなど、具体的な設計条件の制約
- ・検討方法に工夫の余地がある

総合評価落札方式の今後のあり方

- 業務の特性を踏まえた、「簡易型」、「標準型」、「技術者評価重視型」及び「プロポーザル方式」の使い分けについて明確化していく必要がある。

		評価項目			
		技術者評価 ・実施方針	評価テーマ	ヒアリング	価格点:技術点
プロポーザル		○	○	○	価格の評価なし
総合評価	標準型	○	○	○	1:2~1:3
	技術者評価重視型(試行)	○	—	○	1:3
	簡易型	○	—	—	1:1



試行2の評価と今後の方向性

試行2の実施結果

○入札・落札の状況について

- 悪影響は見られない。

○成果の品質について

- 試行業務で業務成績に良好な結果が得られた。

○技術力の評価について

- 実施方針の評価、ヒアリングのあり方は検討の余地がある。
- 技術者評価重視型が適した業務と標準型が適した業務がある。

○事務の簡素化について

- 受発注者ともに負担軽減効果が認められるが、ヒアリングの負担感がある。

※試行では良好な結果が得られたが、試行の範囲は限定されており、本格導入に向けては、以下の課題について検討が必要

試行2の本格導入に向けた課題

①総合評価の各方式の適切な活用に向けた検討

- ←標準型、簡易型、技術者評価重視型をどのような業務に適用するか。

②技術者評価の充実・改善に向けた検討

- ←技術者評価重視型における効果的な技術者評価のあり方。

③総合評価落札方式の今後のあり方

- ←上記検討も踏まえて、簡易型～プロポーザルの位置付け、使い分けの検討。

標準型、簡易型、技術者評価重視型をどのような業務に適用するか

○実態調査

- ・ 標準型、簡易型それぞれで発注されている業務分野、業務内容、業務規模
- ・ 標準型と簡易型の使い分けの目安(業務内容、技術的難易度)
- ・ 試行において、技術者評価重視型を適用する業務の判断基準

○受発注者との意見交換

- ・ 方式選定の判断基準の明確化の必要性、程度
- ・ 各方式の技術提案、技術評価にかかる業務負担

○評価テーマの分析

- ・ 評価テーマの内容の類型化(業務分野別にどのようなテーマで評価しているか)
- ・ 評価テーマと業務成績評定との関係(業務分野別、評価テーマ類型別)

技術者評価重視型における効果的な技術者評価のあり方

○ヒアリングの評価方法

- ・ ヒアリング結果の技術評価への反映について検討
- ・ ヒアリングに係る業務負担の軽減措置の検討

○過去の技術者の成績の評価手法

- ・ 評価対象とする業務分野等の検討